川村学園女子大学研究紀要　第16巻　第1号　133頁―149頁　2005年

「社会福祉援助技術現場実習指導」からみた，実習教育の課題に関する研究
――実習学生の自己評価と実習施設の評価との関連から――

梅　澤　嘉一郎*・藤　原　昌　樹**・松　原　征　男***

A Study of Problems to be Solved in Field Work Education under the Guidance of Social Work Practice
In Relation to between Self Assessment of Field Work Student and Institutional Assessment

Kaichiro UMEZAWA, Masaki FUJIWARA and Isao MATSUBARA

要　旨

本学社会教育学科では，平成14年度よりカリキュラムを改訂し，社会福祉士，精神保健福祉士の国家試験受験資格が得られる科目が設置され，平成15年度から本大学においても社会福祉援助技術現場実習並びに精神保健福祉援助実習が開始され，併せて40名の学生が実習をおこない，平成16年度においては，59名の学生が実習をおこなっている。

社会福祉援助技術現場実習では，23日以上かつ180時間以上の福祉施設の現場実習を必要とする。

この現場実習は約1ケ月の長期にわたり，利用者の生活保障はもとより人命，権利擁護や人権への配慮も必要なことから失敗は許されないだけに事前指導の徹底が求められている。

本研究では，平成15年度「社会福祉援助技術現場実習」の実施結果から，実習学生の実習自己評価と施設による実習評価とを併せて検討することにより，事前指導課題を明確にし，今後の事前学習並びに事後学習の指導に活かすことを目的とするものである。

検討をおこなった結果，学生と施設による自己評価との間においては，総合評価では差がなく，評価項目間では差があること。総合評価以外の評価項目間で見ると，各評価項目毎に施設評価と自己評価を比較するといずれも自己評価の方が低くなっているものの，利用者関係，実習態度，総合評価，知識の順に自己評価と施設評価に差が生じやすくなっていること。大学の

*助教授　社会福祉学
**講　師　スポーツ社会学
***助教授　障害者福祉，施設福祉

「社会福祉援助技術現場実習指導」評価との関連では差があることが明らかにされた。
各評価項目における自己評価と施設評価とを比較すると，施設評価と自己評価ともに「基礎的知識」の評価が一番低い。そして施設評価では，「基礎的知識」，「利用者との関係」，「実習態度」の順に評価が高い。
一方，学生は，児童福祉施設の場合は同じ順で評価が高くなっているが，他の施設種別では，「基礎的知識」，「実習態度」，「利用者との関係」の順に評価が高くなっている。
また，各評価項目ごとに施設評価と自己評価を比較するといずれも自己評価の方が低くなっている。
次に学生の実習に対する満足度を見るとほぼ満足しているものの，高齢者施設実習学生で目標達成率が低い。その理由として高齢者施設での実習内容が特に介護技術の比重が高いことが明らかにされた。
そして施設評価と大学での事前学習科目との相関との調査結果から社会福祉援助技術論，介護概論，社会福祉原論の順に相関度が高いことが明らかにされた。
したがって，事前指導では，かかる科目の履修の促進を図ると共に，社会福祉士の実習とはいえ，現状では介護技術の比重が高いだけにかかる施設種別毎での実習内容に応えるよう実習内容を改善する必要があることが本研究で明らかにされた。

キーワード：社会福祉援助技術現場実習，社会福祉援助技術現場実習指導，施設評価，学生自己評価

1. はじめに

本学社会教育学科は，私立大学における教育学部が数少ないというメリットを生かし，生涯教育学を基調に社会教育主事，社会福祉主事，学芸員，図書館司書等の資格も併せて取得できるということで社会に卒業生を送り出してきた。

しかしながら21世紀の超高齢社会を踏まえ，平成14年度よりカリキュラムを改訂し，社会福祉士，精神保健福祉士の国家試験受験資格が得られる科目が設置され，平成15年度から本大学においても社会福祉援助技術現場実習並びに精神保健福祉援助実習が開始された。

平成15年度は，両実習併せて40名の学生が実習をおこない，平成16年度においては，59名の学生が実習をおこなっている。

社会福祉援助技術現場実習では，23日以上かつ180時間以上の福祉施設の現場実習を必要とする。

この現場実習は約1ケ月の長期にわたり，利用者の生活保障はもとより，人命，権利擁護や人権への配慮も必要なことから事前指導の徹底が強く求められている。

2. 研究目的

平成15年度においては，本学では初の現場実習であったため，実習施設の確保が精一杯という状況から実習時期も施設の空き状況にあわせざるをえないこと，必ずしも実習学生の実習種別の希望を踏まえた施設種別でなかったこと。学生の事前学習も段階を追った履修は難しく社会福祉援助技術現場実習では，3年次生が14名，4年次生が18名という構成であり，「社会福祉原論」や「社会福祉援助技術論」履修済み者は僅か2名，介護概論は実習の年度に履習するという状況であり，実習事前指導も実習時期がまちまちで足並みが揃わないため個別指導を要する状況が続いた。

かかる実態を踏まえ，今後の大学での実習事前指導はどうあるべきかを明らかにする必要に迫られている。

そこで，本研究は，実習学生の多い「社会福祉援助技術現場実習」に限定し，平成15年度「社会福祉援助技術現場実習」の実施結果から，実習学生の実習自己評価と施設での実習評価とを比較検討することにより，事前指導課題を明確にし，今後の事前学習並びに事後学習の指導に活かすことを目的とするものである。

3. 研究対象と方法

社会福祉施設において，23日以上かつ180時間以上の現場実習を終了した学生32名が対象である。

所属学科は，生活環境学科1名以外は社会教育学科である。学年は，4年生18名，3年生は14名である。実習の終了のお礼を含め施設実習指導者に「基礎的知識」，「利用者との関係」，「実習態度」，「総合評価」の3項目について3段階評価（A＝よい，B＝ふつう，C＝要努力）で評価をお願いし，併せて自由記述の総合評価もお願いした。その結果を「施設評価」として研究対象とした。

次に，施設評価に準じて，同様の評価項目と評定方法で学生による自己評価を実習日誌に添付してある評価用紙で実習終了者に評価をお願いした。

また，実習開始年の前年にあたる10月実施のオリエンテーション時にエントリーカードの提出の際に，あわせて社会福祉士受験に関わる必要科目の履習状況を記入していただいているので，この履習状況も参考にし，履習科目の状況と施設評価の関係についても考察する際の資料とした。

4. 結　　果

(1) 実習先種別

表1から，知的障害者施設が12施設（38％）で一番多い。続いて老人デイサービスセンター9施設（28％），特別養護老人ホーム5施設（16％），児童養護施設4施設（13％），身体障害者授産施設（5％）の順で多い。

(2) 全体評価としての施設評価と自己評価の比較

「基礎的知識」,「利用者との関係」,「実習態度」,「総合評価」の4項目について3段階評価（A＝よい，B＝ふつう，C＝要努力）をA＝3点，B＝2点，C＝1点で積算し100点満点に換算したものが，表2～表5及び図2～図5である。この図表から，総じて自己評価が施設評価より厳しくなっている。

(3) 施設及び自己評価の評価項目との関連

各評価項目毎に施設評価及び自己評価別に表2から有意差を$\chi 2$乗検定したのが表10である。

各評価項目とも有意差なしで施設評価と自己評価には有意差がないことが示された。

各評価項目間では,「利用者との関係」,「実習態度」,「総合評価」,「基礎的知識」の順に$\chi 2$乗値が高くなり，自己評価と施設評価に差が生じやすくなっている。

表1　実習先施設種別一覧

	高齢者施設		障害者施設		児童施設
施設種別	特別養護老人ホーム	老人デイサービス	知的障害更生施設	身体障害者授産施設	児童養護施設
実習施設数	5	9	12	2	4

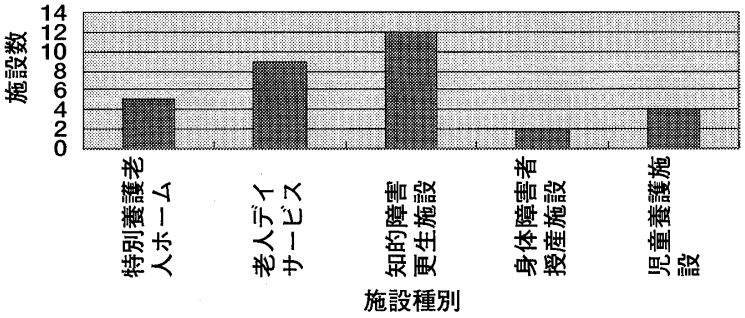

図1　実習先施設種別

表２　施設評価と自己評価の比較表（全体）

	施設評価				自己評価			
	基礎的知識	利用者との関係	実習態度等	総合評価	基礎的知識	利用者との関係	実習態度等	総合評価
評価Ａ人数	9	17	23	20	6	14	15	13
評価Ｂ　〃	21	12	7	10	17	14	12	15
評価Ｃ　〃	2	3	2	2	7	3	2	3
不詳	0	0	0	0	2	1	3	1
計	32	32	32	32	32	32	32	32
点数	71	78	85	82	59	73	71	71
点数（100 点）	74	81	89	85	61	76	74	74

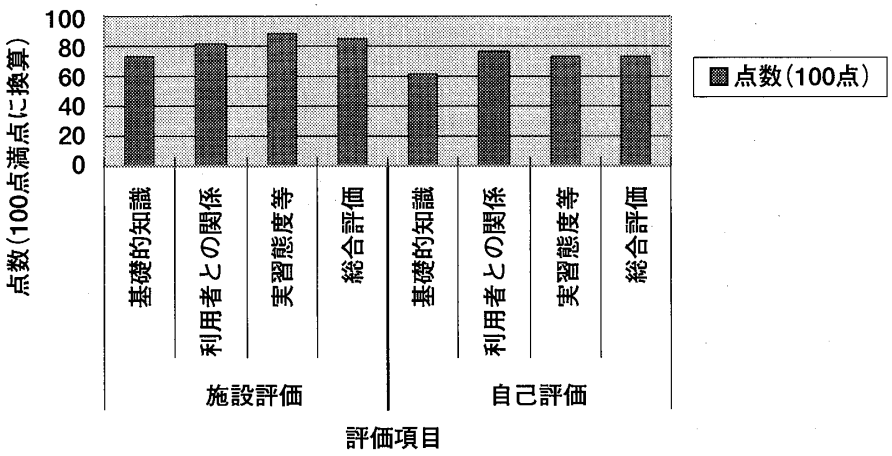

図２　施設評価と自己評価の比較

表３　施設種別別施設評価と自己評価の比較（高齢者施設）

	施設評価				自己評価			
	基礎的知識	利用者との関係	実習態度等	総合評価	基礎的知識	利用者との関係	実習態度等	総合評価
評価Ａ人数	5	7	9	8	3	5	6	6
評価Ｂ　〃	9	5	3	4	8	7	5	5
評価Ｃ　〃	0	2	2	2	2	1	1	2
不詳	0	0	0	0	1	1	2	1
計	14	14	14	14	14	14	14	14
点数	33	33	35	32	27	30	29	30
点数（100 点）	79	79	83	81	64	71	69	71

備考　1，老人デイサービス施設９ケ所，特別養護老人ホーム５ケ所

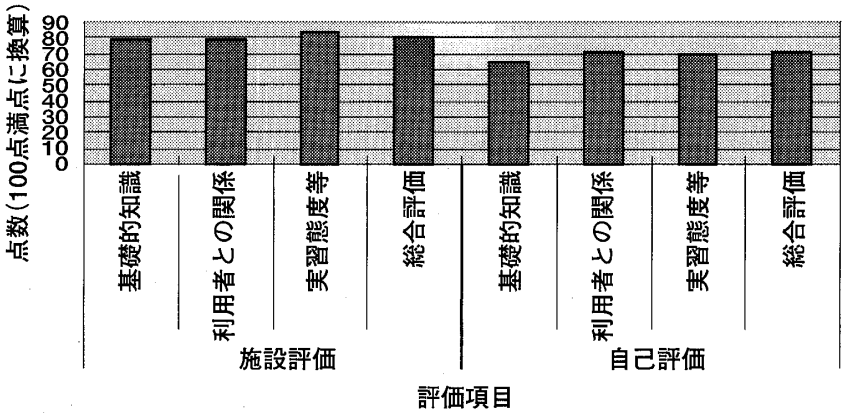

図3　高齢者施設の比較

表4　施設種別別施設評価と自己評価の比較（障害者福祉施設）

	施設評価				自己評価			
	基礎的知識	利用者との関係	実習態度等	総合評価	基礎的知識	利用者との関係	実習態度等	総合評価
評価A人数	3	8	10	9	2	7	6	5
評価B　〃	9	5	4	5	8	5	6	8
評価C　〃	2	1	0	0	3	2	1	1
評価D　〃	0	0	0	0	1	0	0	0
不詳	0	0	0	0	0	0	1	0
計	14	14	14	14	14	14	14	14
点数	29	35	38	37	25	33	31	32
点数（100点）	69	83	90	88	60	79	74	76

備考　1，知的障害者更生施設10ケ所，身体障害者授産施設2ケ所，知的障害者授産施設等2ケ所。

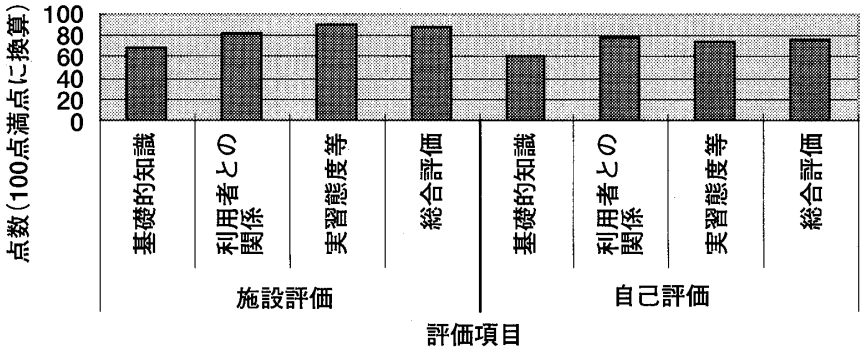

図4　障害者施設の比較

表５　施設種別別施設評価と自己評価の比較（児童福祉施設）

	施設評価				自己評価			
	基礎的知識	利用者との関係	実習態度等	総合評価	基礎的知識	利用者との関係	実習態度等	総合評価
評価Ａ人数	1	2	4	3	1	2	3	2
評価Ｂ　〃	3	2	0	1	1	2	1	2
評価Ｃ　〃	0	0	0	0	2	0	0	0
評価Ｄ　〃	0	0	0	0	0	0	0	0
不詳	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	4	4	4	4	4	4	4
点数	9	10	12	11	7	10	11	10
点数（100点）	75	83	100	92	58	83	92	83

備考　1，児童養護施設４施設（民営施設２ケ所，公立民営施設２ケ所）

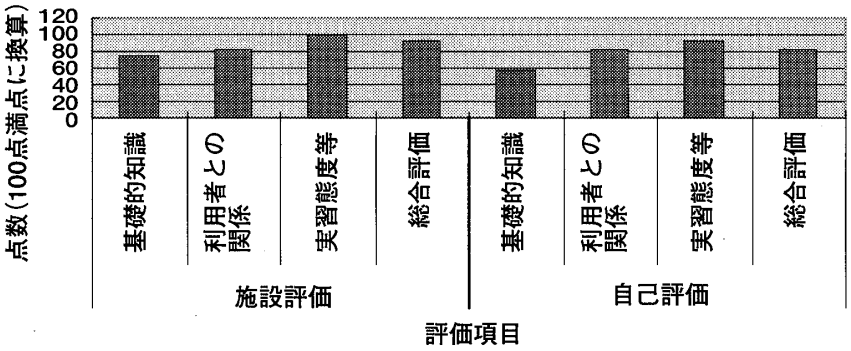

図５　児童福祉施設の比較

(4) 各評価項目における施設評価と自己評価の比較

各評価項目では，施設評価と自己評価ともに「基礎的知識」の評価が一番低い。そして施設評価では，「基礎的知識」，「利用者との関係」，「実習態度」の順に評価が高い。

一方，学生は，児童福祉施設の場合は同じ順で評価が高くなっているが，他の施設種別では，「基礎的知識」，「実習態度」，「利用者との関係」の順に評価が高くなっている。

また，各評価項目毎に施設評価と自己評価を比較するといずれも自己評価の方が低くなっている。

(5) 施設・自己評価間及び評価項目間の変動

施設・自己評価間の総合評価について，その変動を表10－２の分散分析の結果から見ると，

表6　大学実習評価と施設実習評価との関係

	大学実習評価			施設評価		
評価	高齢者施設	障害者施設	児童施設	高齢者施設	障害者施設	児童施設
AA	0	2	1	—	—	—
A	8	6	2	8	9	3
B	6	5	1	4	5	1
C	0	1	0	2	0	0
不詳	0	0	0	0	0	0
計	14	14	4	14	14	4
点数				35	37	11
点数（%）	81	80	85	83	88	92

備考　1，大学の成績換算：AA＝95点，A＝85点，C＝75点，D＝65点。

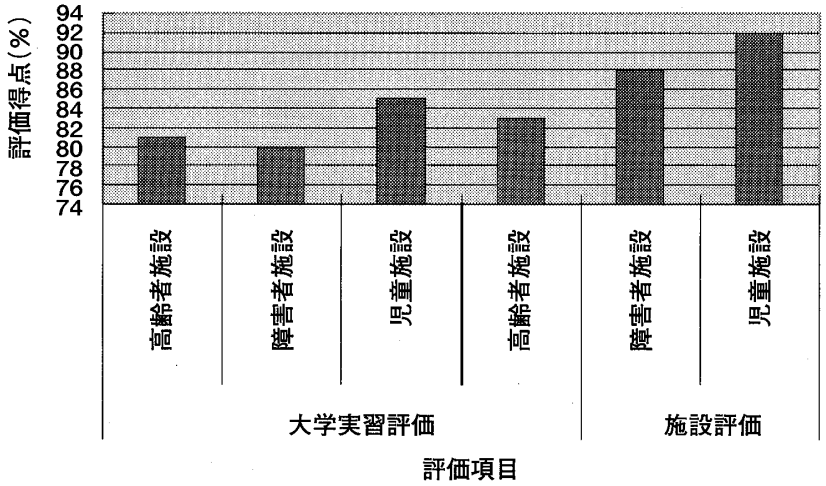

図6　大学実習評価と施設評価の比較

F値＝0＜F (0.95)＝10.127から有意差なく，施設評価と自己評価の総合評価では差がないといえる。

評価項目間変動では，F値＝9．421＞F (0.95)＝9.276から有意差があり，施設評価と自己評価の総合評価では差があるといえる。

(6) 施設評価と大学実習関連科目履習状況との関連

表11の相関分析から，社会福祉援助技術論，介護概論，社会福祉原論の順に相関が高い。

(7) 施設種別実習内容中のケアワークとソーシャルワークの比率

日本社会福祉士会『社会福祉実習担当者養成セミナー』，2004年3月7日，52ページによれ

表7　実習目標達成等状況

実習先種別		実習生人員	評価			達成率(%)	主な目標例
大区分	中区分		A	B	C		
高齢者施設	特別養護老人ホーム	3	2	0	1	78	○　老いの理解（1） ○　介護技術を身につける（1） ○　利用者の生活や社会福祉士の業務把握（1）
	老人デイサービス	6	5	1	0	94	○　利用者とのコミュニケーションの取り方と接し方(1) ○　高齢者との接し方の習得（1） ○　日々の目標の達成（1）
	小計	9	7	1	1	89	
障害者施設	身体障害者授産施設	3	2	1	0	89	○　利用者との関わり方，施設のあり方を学ぶ(1) ○　利用者と家族の関わり方を学ぶ（1） ○　施設と地域社会との関わり方を学ぶ（1）
	知的障害者更生施設	5	3	2	0	87	○　利用者と人権との関わり方を学ぶ（1） ○　信頼関係（rapport）の構築を学ぶ（1） ○　利用者とのコミュニケーションの取り方を学ぶ（1） ○　利用者を取り巻く社会現状の把握（1）
	小計	8	5	3	0	88	
児童施設	児童養護施設	2	2	0	0	100	○　個別性を配慮したコミュニケーションの取り方（1）
	合計	19	14	4	1	93	

注　A＝達成，B＝ほぼ達成，C＝達成できず。

表8　実習種別自己目標達成状況

実習先種別	目標達成率(%)
特別養護老人ホーム	78
老人デイサービス	94
身体障害者授産施設	89
知的障害者更生施設	87
児童養護施設	100

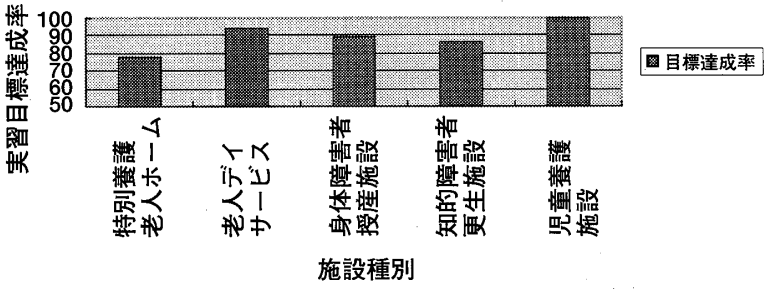

図7　施設種別実習目標達成率

ば，ソーシャルワークの施設種別内容を示している。

すなわち，老人福祉施設＝相談，ボランティア，個別援助計画，家族関係。身体障害者施設＝社会交流，自立支援，苦情，家族関係。知的障害者施設＝地域生活支援，職業訓練，就職活動，施設生活そのものの社会化。児童養護施設＝交友関係，学校生活，進路等である。

実習報告書の実習内容から集計したのが表9である。

ソーシャルワークの比率は，平均で，18％。比率が多い順に，児童施設（100％），老人デイサービス（25％），身体障害者授産施設（23％），知的障害者更生施設（9％），特別養護老人ホーム（7％）となっている。

このことは逆の順にケアワークの比率が高くなっているので，ソーシャルワークを実習課題とするには，実習先の選定にあたり考慮しなければならない課題であるといえる。

(8) 実習目標の達成状況

表7，図7のとおり全施設平均では93％の達成率であった。達成率の高い施設種別順に児童養護施設，（100％），老人デイサービス（94％），身体障害者授産施設（89％），知的障害者更生施設（87％），特別養護老人ホーム（78％）である。

5. 考察と結論

(1) 実習先の実習内容に即した事前指導の充実

知的障害者更生施設が12施設（38％）で一番多く，続いて老人デイサービスセンター9施設（28％），特別養護老人ホーム5施設（16％），児童養護施設4施設（13％），身体障害者授産施設（5％）の順に実習先の施設種別が多い状況であった。

この順はほぼ千葉県内施設種別数の割合にほぼ一致しており，今後もかかる順での実習先となると思われ，かかる実習種別の比率に応じた実習内容を配慮した事前指導が必要である。

ソーシャルワークの比率は表9のとおりである。平均で18％。比率が多い順に，児童施設（100％），老人デイサービス（25％），身体障害者授産施設（23％），知的障害者更生施設（9％），特別養護老人ホーム（7％）となっていることが明らかにされた。このことは逆の順にケアワークの比率が高くなっている現状であり，ソーシャルワークの実習ではあるが，実習先の実習内容に応じケアワークも念頭においた事前学習が今後とも必要である。

平成16年度においては，かかる要請から，事前指導で介護福祉士をゲストスピーカーに招き介護技術の実技指導をお願いしたが，今後とも継続した指導が必要である。

(2) 大学での実習事前指導に対する施設評価

施設側の評価結果では，「不合格」はなく，事前指導がある程度徹底された結果からの評価ではないかと思われる。

(3) 事前指導の改善内容

「基礎的知識」，「利用者との関係」，「実習態度」，「総合評価」の4項目についての3段階評価では，総じて自己評価が施設評価より厳しくなっているものの学生と施設実習担当者との評

表9　施設種別実習内容中，ケアワーク（介護援助）とソーシャルワーク（相談援助）の比率と内容

施設種別	相談援助比率（%）	介護	相談	ケアワーク内容	ソーシャルワーク内容
特別養護老人ホーム	7	13	1	オムツ介助 3 入浴介助 3 食事介助 3 排泄介助 3 外出介助 1	支援会議の同席 1
老人デイサービス	25	12	4	入浴介助 5 排泄介助 3 食事介助 3 歩行介助 1	面接相談 2 利用者宅訪問 1 レクリエーション
身体障害者授産施設	23	10	3	食事介助 3 排泄介助 3 通園バス送迎介助 3 リハビリテーション 1	生活支援相談 3
知的障害者更生施設	9	10	1	排泄介助 4 入浴介助 2 歯磨き介助 2 着替え介助 1 食事介助 1	作業補助 1
児童養護施設	100	0	8		生活支援 （掃除・洗濯等） 4 学習指導 2 生活指導 2
計	18	45	17		

【備考】 平成15年度「社会福祉援助技術現場実習の川村学園女子大学実習報告書」より集計。

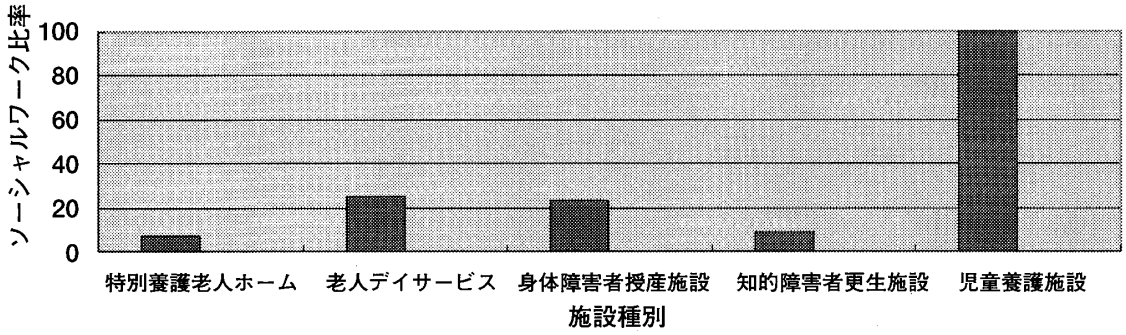

図8　施設種別実習内容のソーシャルワークの比率

表 10　施設及び自己評価の評価項目別有意差

評価項目	知識	利用者関係	実習態度	総合評価	大学実習成績＊	P ＝ 0.05 値
χ 2 乗値	5.8	0.13	0.95	2.39	6.49	5.991

【備考】1，χ 2 乗値が，5.991 より小の場合は，有意差なしで，学生と施設との間に差がないことを示す。
2，大学実習成績は，「社会福祉援助技術現場実習指導」の成績と施設全体評価との比較を示す。

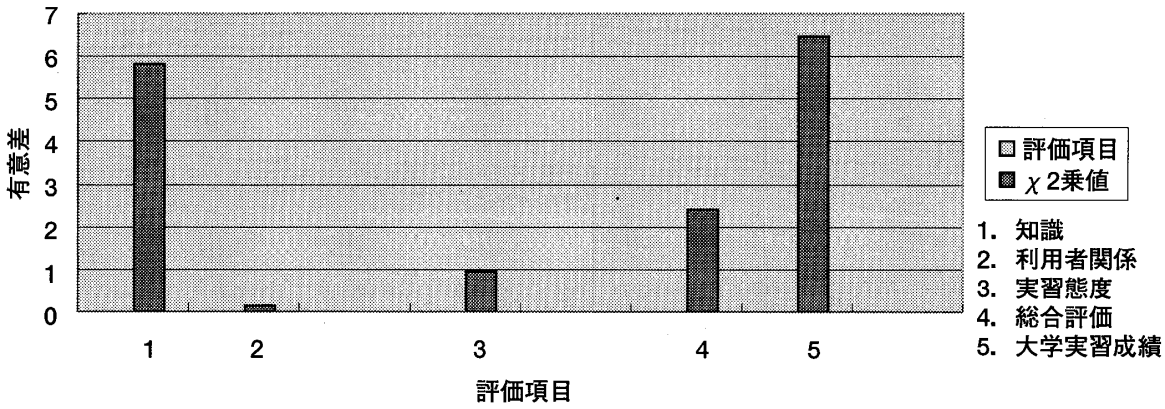

図 9　施設評価と自己評価との評価項目別有意差の状況

表 10 － 2　施設評価と学生による自己評価（総合評価）

（単位：人）

評価項目	A	B	C	D	計
	知識	利用者関係	実習態度	総合評価	
施設評価	20	10	2	0	32
学生自己評価	13	15	3	1	32

表 10 － 3　分散分析表

変動要因	自由度	F 値	P 値	F (0.95)
施設・自己評価間変動	1	0	1	10.127
評価項目間変動	3	9.421	0.048	9.276

【備考】1，施設・自己評価間変動：F ＝ 0 ＜ F (0.95) ＝ 10.127
2，評価項目間変動：F ＝ 9.421 ＞ F (0.95) ＝ 9.276

表 11　施設評価と大学実習関連科目取得状況との相関状況

関連科目取得状況	社会福祉原論	実習種別関連科目	援助技術論	介護概論	
施設評価項目	知識	知識	利用者関係	知識	利用者
相関係数	0.97	0.26	1	0.81	0.99

（備考）
大学履修状況評価（%）

高齢者施設実習者	64	67	55	12
障害者施設実習者	69	83	67	58
児童福祉施設実習者	67	62	67	57

（注）
大学履修状況評価（%）の算定方法として，履修済みは 3 点，履修名中が 2. 点，次年度履習予定を一 . 点として換算。，
実習種別関連科目とは，高齢者施設実習予定者は，「老人福祉論」，障害者施設実習予定者は，「障害者福祉論」児童福祉施設であれば，「児童福祉論」の履習状況をさす。

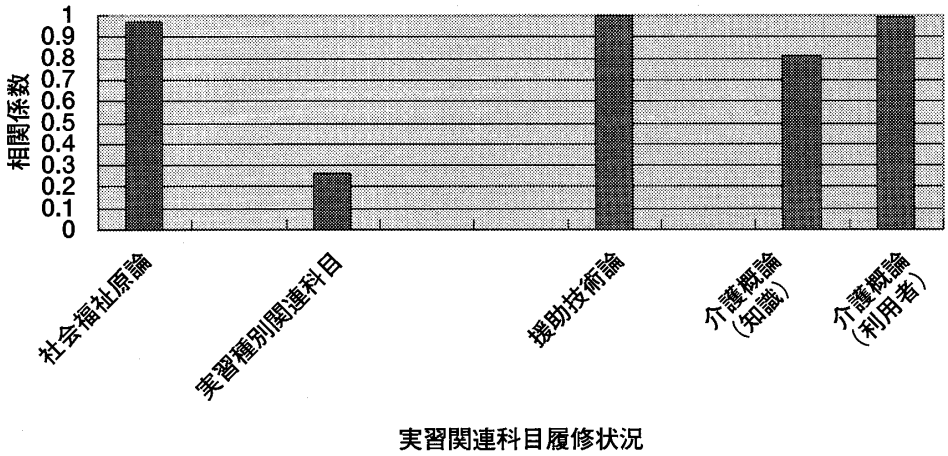

図 10　施設評価と実習関連科目履修状況との関連

価の間には差が見られないことが明らかにされた。

各評価項目間における総合評価では差が見られるが，その他の評価項目間では，「利用者との関係」，「実習態度」，「総合評価」，「基礎的知識」の順に自己評価と施設評価に差が生じやすくなっている。

各評価項目での評価点は，施設評価と自己評価ともに「基礎的知識」の評価が一番低い。そして施設評価では，「基礎的知識」，「利用者との関係」，「実習態度」の順に評価が高い。

一方，学生は，児童福祉施設の場合は上記と同じ順で評価点が高くなっているが，他の施設種別では，「基礎的知識」，「実習態度」，「利用者との関係」の順に評価点が高くなっている。

以上の結果から，基礎的知識の再確認と高齢者や障害者へのかかわり方への事前指導の徹底が今後とも必要である。

(4) 施設評価と大学実習関連科目

施設評価と大学での事前学習科目との相関との調査結果から社会福祉援助技術論，介護概論，社会福祉原論の順に相関度が高いことが明らかにされている。

したがって，事前指導では，かかる科目の履修の促進を図ると共に，社会福祉士の実習とはいえ，現状では介護技術の比重が高いだけにかかる施設種別毎での実習内容に応えるよう実習内容を改善する必要がある

また，表12の「実習で難しかったこと及び指導事項」から，テンカンや痴呆利用者の具体的支援方法等も現場では必要であるとしている。命に関わることもあり待ったなしの対応に迫られる場合もないとはいえない。そのため施設実習指導者からは介護技術，利用者との接し方，痴呆利用者への対応等，臨機応変の対応が指導されている。

施設評価が社会福祉援助技術論，介護概論，社会福祉原論の順に相関が高いことも明らかにされており，各施設種別の実習関連科目である，介護概論，医学一般，社会福祉援助技術論，老人福祉論，障害者福祉論等の関連科目との連携の充実もあわせて今後とも必要である。

(5) 実習目標達成状況との関連

実習目標達成率の高い施設種別順に児童養護施設，(100％)，老人デイサービス（94％），身体障害者授産施設（89％），知的障害者更生施設（87％），特別養護老人ホーム（78％）である。学生の実習に対する満足度を見るとほぼ満足しているものの，高齢者施設実習者で目標達成率が低い。

このことは，実習内容でソーシャルワークの比率が高い施設種別順と目標達成率が知的障害者更生施設を例外として一致している。このことは，ケアワークの実習内容の比率が高い施設種別はソーシャルワークを実習目標とした達成率がおのずから低くなることは必至であるともいえる。

知的障害者更生施設の場合は，ケアワークが9割ではあるものの，知的障害者では年齢構成上，高齢者の施設の利用者よりも利用者に溶け込みやすいという事情も影響しているかと思われる。

今後の事前指導では，ケアワークにもソーシャルワーク面の発見と実習計画指導でかかる側面での指導が必要である。

表 12　実習で難しかったこと及び指導事項

施設種別	難しかったこと	実習指導者からの指導事項
特別養護老人ホーム	現場は失敗が許されないこと。 利用者のニーズに即した接し方	利用者各人にあった介助方法を。 使える機能を動かしてあげることが援助だ。
老人デイサービス	痴呆の方への接し方 利用者が何ができ，できないのか見極めること。 利用者の生活の場に踏み入れるので，信頼をうる事に苦労した。 信頼関係の樹立と緊急時の判断。	介助技術，利用者との接し方，痴呆の方への対応の仕方。 利用者の立場に立って考える。 見守りと利用者ができないときに介助する。
障害者授産施設	介助の際に腰を痛めた。 障害者が施設外でも過ごしやすいような地域環境づくり。 障害者の話し方に慣れること。 テンカン発作への対応の仕方。	実習生という立場を踏まえて支援を。 利用者や家族にも支えられる社会福祉士に。 もっと積極的な利用者への関わりを。
知的障害者更生施設	臨機応変の対応の仕方。 利用者がいけないことをした場合の注意方法。 どこまでやってよいのかの戸惑い。 ソーシャルワークの役割。	目配り，気配り，疑問を常に持つ。 利用者の安全をまず考え行動に。 利用者にあった話し方や対応に心がける。 障害者を支えられる社会福祉士になること。 もっと積極的に接する。 多くの利用者と接しコミュニケーションをとる。 利用者が生き甲斐を持てる場所，場面をつくる。 利用者が生きがいをみつけたら，最大限援助すること。 自分も楽しむこと。 年齢が上の人ばかりなので子ども扱いにしない。 個人のプライバシーを守る。
児童養護施設	個性に合わせ子ども達に注意すること 職員によって子ども達が態度を変えていることに気がついた時。	何事にも臨機応変に動くように。 子供達の前でメモをとらないように。 利用者の名前をまず覚えること。

【備考】平成 15 年度「社会福祉援助技術現場実習指導での川村学園女子大学実習報告書より」集計。

(6) 今後の実習教育の更なる充実のために

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験資格取得の一環としての実習教育もまだ2年目ということで，実習先の確保，実習日誌等の整備，巡回指導，事前・事後指導，国家試験対策も未だ試行錯誤の状態が続いているというのが現状である。

かかる試行錯誤の状況は，実習受け入れ先も養成校と同様な状況が表 14 から窺われる。思いは養成校と受け入れ施設は同じであるという共通の原点に立ち，今後とも巡回指導等を通じ，連携しながら実習教育の更なる充実の必要性が本研究から明らかにされた。

表 13　大学での事前指導の要望等

実習先施設種別	要望事項とこれから実習をされる学生へのコメント
特別養護老人ホーム	1，基礎的介護技術の習得（車イスの押し方，体位変換等） 2，社会福祉士としてどうありたいかという目標を持つことが充実した体験につながる。 3，介護保険制度の学習
老人デイサービス	1，実習種別が決まったら，種別に応じた具体的学習。 2，介護技術等実践的学習。 3，社会福祉制度の学習 4，施設と大学との連絡を十分に。
障害者授産施設	1，施設との連絡をしっかりとって確認を。 2，自分たちで実習先を探したかった。 3，障害者の医学的知識を身に付けていればよりよい実習ができる。 4，笑顔，自分らしさ，感謝の心を忘れずに。
知的障害者更生施設	1，実習日誌の内容をもっと分かり易く。 2，実習直前は，各施設種別毎に集中授業をやった方が良いと思う。 3，分からないことは，どんどん聞いて行動すると良い。 4，ボランティア体験も大切。 5，メンバーとの関係が良く築けた時，それは一生の思い出，糧となると思います。
児童養護施設	1，事例検討の記録について詳しく教えて欲しかった。 2，入所児童の5割は虐待児童を受けているので児童虐待や児童相談所の機関の勉強を。 3，一番の基本は「挨拶」，実習中の言葉づかいに気を付けること。

【備考】平成 15 年度「社会福祉援助技術現場実習指導での川村学園女子大学実習報告書より」集計。

表 14　施設実習担当者へのアンケート結果から

実習受けいれ施設実習担当職員要望事項	人数	割合（%）
1，実習指導専任職員の配置	49	36.6
2，実習指導担当以外の職員の実習への理解	24	17.9
3，実習受け入れ養成校実習担当教員との連携強化	21	15.7
4，実習担当職員の増加	16	11.9
5，実習指導職員を対象とした研修機会の提供	14	10.4
6，一度に受け入れる実習生を少なくする	7	5.2
7，実習の受け入れを社会福祉実習に限定する	3	2.3
計	134	100

【出典】一村・柿木・遠塚谷『社会福祉実習プログラム―関西福祉科学大学』，第 52 回日本社会福祉学会，2004 年 10 月 9 日。

主な参考文献

1, 大西敏浩他『社会福祉援助技術現場実習の課題』（四天王寺国際仏教大学），日本社会福祉学会第52回大会報告集，2004年10月．135ページ。
2, 清重哲男『社会福祉士養成教育の専門性と現場実習の効果』（NHK学園社会福祉士養成課程），日本社会福祉学会第52回大会報告集，2004年10月．529ページ。
3, 金　他『社会福祉実習におけるスーパービジョンの体系化』（田園調布学園大学），日本社会福祉学会第52回大会報告集，2004年10月，525－526ページ。
4, 日本社会福祉士会『社会福祉実習担当者養成セミナー』，2004年3月，52ページ。